2016年6月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第473号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

『そよ風のように街に出よう』いよいよ終刊へ
「共に生き、共に学ぶ」の立場をとって、そこから障害者差別を社会に問おうとした。

文・『そよ風のように街に出よう』副編集長　小林 敏昭

創刊号（1979年12月）

89号（2016年4月）

『そよ風』の３つの特質

障害者問題総合誌『そよ風のように街に出よう』（以下、『そよ風』）は来年４月、創刊以来38年の歴史に幕を降ろすこととなった。あと２号（90号、91号）を発行して終刊となる。と言っても私たちにそれほどの悲壮感や敗北感はない。「廃刊」や「休刊」ではなく「終刊」と呼ぶのにもそれなりの理由がある。ここに至る経緯を振り返ってみたい。

『そよ風』には３つの特質がある。１つ目は市民運動としての特質である。『そよ風』を創刊した1979年は、障害者運動史において特別な意味を持っている。障害児の教育を特殊学校において保障する、いわゆる養護学校義務制が施行された年である。この義務制化をめぐっては、鋭い対立があった。賛成する人たちは、それまで就学猶予や免除という形で公教育から排除されてきた障害児がこれによって就学する権利を得たと評価し、反対する人たちは、「共に生き、共に学ぶ」という理念を否定して別学教育を固定化するものだと批判した。

『そよ風』編集部は創刊にあたって、「障害者自身の立ちあがりをよりどころとした本づくり」「社会の動きや差別のありように、しっかり向きあった本づくり」など６つの編集の指針を掲げ、はっきりと後者の「共に生き、共に学ぶ」の立場をとって、そこから障害者差別を社会に問おうとした。

身体と実感に支えられた本づくり

２つ目は表現方法としての特質である。それを表すのが「頭の中だけにとどまることや、言葉の乱用をさけ、身体と実感に支えられた本づくり」という編集の指針である。創刊時に「東の『福祉労働』、西の『そよ風』」と新聞で紹介されたことがある。東京発の『福祉労働』（現代書館刊）がどちらかと言えば学校や施設や地域などの現場における実践を理論的に支えることを重視したのに対して、大阪発の『そよ風』は障害者の生の声や現場の人たちの率直な思いを前面に押し出そうとした。そのために全国各地を訪ね、それぞれの現場のにおいをできる限りそのまま文字化するという方法が記事の中心となった。

定期購読者や販売取次者に支えられ

３つ目は発行形態としての特質である。発行人の「障害者問題資料センターりぼん社」は「社」という名前こそ付いているが営利企業でも法人でもなく、任意の市民団体である。専従者やアルバイトはいるが、『そよ風』編集部を構成するのは基本的に無給のボランティアたちであり、連載の執筆者も原稿料は現物（つまり『そよ風』）支給という形をとってきた。販売についても、地方・小出版流通センターのルートで取次に流れる以外は直販であり、定期購読者や販売取次者と呼ぶ人たちによってその体制は支えられてきた。それを可能にしたのは、前の２つの特質によるところが大きい。私たちは「互いの違いを認め合い共に生きる」という考え方を共有する人や団体を訪れ、情報交換し、取材し、そして販売

を委託した。専従者は『そよ風』が発行されると、それを車に詰め込んで全国を回った。20世紀初頭、荒畑寒村たちがリヤカーで「社会主義伝道行商」を行ったのは有名だが、そのリヤカーを自動車に代えればまさに現代の「伝道行商」である。そうした、いわば若さ（体力）と志（思想）に支えられた活動が『そよ風』独特の発行形態を可能にしたと言えるだろう。

なぜ終刊に至ったのか

さて、以上３つの特質がそのまま『そよ風』終刊の理由につながる。まず障害者を取り巻く状況が大きく変化した。国連が定めた国際障害者年（1981年）を契機にノーマライゼーション（障害者も健常者と同様の生活をする権利があるという思想）やIL運動（地域での自立生活を確立するための障害者自身による運動）の波が日本にも押し寄せ、以後「地域で共に生きる」ための多くの制度や施策が推進されることになった。創刊時の私たちの「共に生き、共に学ぶ」という主張は、まだまだ不十分なところを残しつつも、かなりの程度、実現されつつあると言える。

次に、そうした状況に後押しされながら、障害者自身が主張する媒体が飛躍的に増えたということがある。一般的にはインターネットの普及によって出版環境が大きく変化したわけだが、それに加えて障害者分野で特徴的なのは、障害低料第三種郵便制度の普及ということがある（2009年にこの制度を悪用してＤＭを大量発送した企業が摘発され、当時の厚労省の局長が逮捕・起訴されるという冤罪事件に発展したことをご記憶の方は多いと思う）。情報の発受信に大きな困難が伴う障害者団体がこの制度を利用することによって、通信物の量は飛躍的に増加した。障害者の生の声や現場の思いは、『そよ風』を媒体としなくても社会に伝えることができるようになった。

以上２つの状況の変化によって、私たちは『そよ風』の社会的な役割は「終わった」と判断した。それが「廃刊」ではなく「終刊」と呼ぶ理由である。だからそれほどの悲壮感はない。ただし問題はそれで終わらない。２つに加えて、無視できない３つ目の「終刊」理由がある。旧来型の市民運動や労働運動の衰退である。『そよ風』の手弁当路線、全国のネットワークを基盤とした直販体制にとって、こうした社会状況の変化は大きく響いた。読者減は、個人よりも団体の取り扱い部数の減少としてそれでなくても余裕のない経営を圧迫した。この３つ目の変化の背景には戦後民主主義（そして憲法の精神）の否定、新自由主義や国家主義の拡張という憂慮すべき流れがあるわけで、他の２つほど楽観的に受け止めることはできない。では終刊のあと、私たちはどのような活動をどのように展開するのかということについては、現在まだ議論の端緒についたばかりである。

《ご投稿のお願い》

最後にこの場を借りて、『そよ風』終刊を迎えるにあたって、皆さんから本誌への投稿をお願いしたい。次号の特集では、皆さんから寄せられたメッセージを満載したいと考えている。

- 原稿のテーマは限定しないが、編集部としては、
  ①『そよ風』89号の特集座談会（終刊を迎えて）の内容についての意見や感想
  ②『そよ風』との個人的な思い出
  ③『そよ風』のこれまでの記事に対する意見や感想
  ④ 差別や貧富の格差など、今の社会状況についての意見
  ⑤「違いを認め合い共に生きる社会」のための提案や、実際に取り組んでいる活動の紹介
  などを書いていただければと思う。
- 字数は2000字以内
- タイトル、お名前（匿名でもＯＫ）、肩書（所属）を添えて
- 締め切りは7月30日（土）必着
- 「そよ風投稿」と明記の上、以下のいずれかの方法でご送付を。

Ｅメール：soyokaze@hi-ho.ne.jp
FAX：06 - 6323 - 4456
郵便：〒533-0033
大阪市東淀川区東中島4-1-15 りぼん社気付「そよ風」編集部

＊

（こばやし　としあき／『そよ風のように街に出よう』副編集長）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『奇跡のシェフ』●神尾哲男著

著者が末期の前立腺ガンと診断されたのは2003年、51歳の時だった。飲食店の店長を任され、忙しく働いていたある日、仕事中に腰に激痛が走って動けなくなり、救急病院に運ばれた。余命数ヶ月などという次元ではなく「死んでいてもおかしくない」という深刻な状態だった。即刻入院し、手術。そして放射線治療、投薬が続けられる。当時は藁にもすがる思いで勧められるままに治療を受けていたが、徐々に治療への疑問を抱くようになり、やがて医師と決別、「自分は料理人だ。だったら〈食〉でどうにかしよう」と決断する。以来自らの体を実験台とした食事療法を実践することになる。本書では、そんな実践から生まれたレシピの数々が紹介されている。素材より調味料、「雑食」という名のバランスが大事、大食は大敵等々…料理に込められた多くの知恵が語られるが、「末期ガン宣告から13年、これだけ生き延びたのだから自分がやってきたことは間違いないと確信している」という言葉が最も印象深い。

◆1512円・Ｂ５変形判・135頁・**上毛新聞社**・群馬・2016/4刊・ISBN9784863521520

『まんが高麗王若光物語　古代の国・高句麗から日本へ！　－時空を超えた歴史ドラマ』●監修／高麗文康・まんが／比古地朔弥

埼玉県日高市にある高麗（こま）神社に祀られている高麗王若光と、現在にまで連綿と続くその子孫たちの歴史物語を漫画で表現した1冊。この高麗神社周辺はかつて高麗郡と呼ばれ、716年に初代郡長・若光によって健郡された。若光は、戦国時代の朝鮮半島において連合した唐・新羅との戦いに破れた高句麗の王族の血を引く。

本書では、若光はもともと、日本に援軍を乞う高句麗からの使節として日本にやってきたが、その間に国が滅び、そのまま日本に残ることになったとされている。そして、国として立ち上がったばかりの日本に尽力し、貴族として認められるまでになった。その後関東各地に散った亡命高句麗人を集め、念願の高麗郡の建郡に尽力する。今年は建郡から1300年、本書は若光を顕彰するとともに、東アジア古代史に連なる壮大な地域史的読み物になっている。因みにこの漫画の主人公は、高麗神社宮司の息子、若光から数えて60代目にあたる少年である。

◆ 1080円・A５判・128頁・**埼玉新聞社**・埼玉・2016/4刊・ISBN9784878894497

『征韓論政変の真相　－西郷と大久保、親友からなぜ激突へ』●伊牟田比呂多著

倒幕・明治維新は、薩摩の西郷隆盛と大久保利通という傑出した人物なくしては実現しなかった。著者はその関係を、薩摩チームの西郷ピッチャー、大久保キャッチャーの名バッテリーと表現する。言い得て妙である、しかし、「征韓論問題」とも「明治6年10月の政変」とも呼ばれる韓国を巡る外交政策論争の場で決裂した二人は、やがて同10年、西南戦争でまみえ、西郷軍約2万、政府軍約1万6千もの死傷者を生む悲劇的な最期に突き進む。人間を信じ思いやりのある西郷と、権力・地位への執念の強い大久保とでは、そもそも相容れないものがあり、大久保は年下でありながら西郷を利用したと著者はみる。この論争の直前、西郷は11年前の「寺田屋事変」で永久流罪に処せられたことが、大久保の讒言によるものであることを知る。論争は言われているような政策の違いではなく、大久保の裏切りに対する西郷の弾劾であった。西郷の真意を知ってほしいと著者はいう。

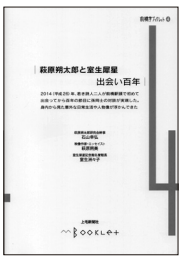
◆ 1620円・四六判・262頁・**高城書房**・鹿児島・2016/3刊・ISBN9784887771598

『好奇心まち歩き　すみだ歴史散歩』●松本こーせい著

東京都墨田区といえば、何はともあれ東京スカイツリーが今や一番の名所。そして下町情緒あふれる街並みも見所の一つです。しかしそんな墨田区も昭和40年頃までは工業地帯、さらに明治時代には歌人伊藤左千夫が牛を飼ったり、幸田露伴が「長閑な別荘地」と評したり、住宅の立て込む現在とは違った光景が広がっていました。本書はそんな墨田区の歴史を、「散歩考古学」を提唱する著者の紹介する11のコースに沿って解き明かしていきます。途中で出会うあれこれの解説はただの歴史解説のみならず、江戸時代のゴシップや言い伝えの類も多く取り上げられます。本所七不思議や玉ノ井のバラバラ殺人事件の顛末など歴史の本には登場しないような話が興味を引きます。どこにでもあるような下町が、積み重ねてきた意外な一面を私たちに見せてくれます。本書を片手に実際に墨田の街歩きに繰り出すもよし。墨田区の歴史を調べる際には百科事典的な役割も果たしてくれるでしょう。

◆ 2160円・A５判・321頁・**鉱脈社**・宮崎・2016/3刊・ISBN9784860616175

『萩原朔太郎と室生犀星　出会い百年』●萩原朔美・室生洲々子・石山幸弘著



“ふるさとは遠きにありて思ふもの　そして悲しくうたふもの”で有名な室生犀星の「小景異情」。北原白秋主宰の「朱欒（ザムボア）」終刊号に載ったこの詩に殊の外感動した萩原朔太郎は早速犀星にまるで恋文のような手紙を送り、二人の書簡交友が始まった。

二人は1914年2月に朔太郎の出身地前橋駅頭で初めて出会う。互いの印象は決して良いとは言えず、予想より長い三週間の滞在で朔太郎はやきもきしたが、二人の邂逅で日本詩壇が活発化し、のちに同人誌「感情」も発行する。犀星は「利根の砂山」「前橋公園」など、前橋に因んだ詩も多く残した。

出会いからちょうど百年後の2014年、前橋市の記念行事で孫同士の対談が実現し、多くの要望で活字化された。萩原朔美と室生洲々子が身内から見た意外な日常生活や人物像を語っている。祖父のみならず母についての話も興味深い。対談の手引きとして朔太郎研究会幹事・石山幸弘の文章も掲載。

◆ 648円・A５判・77頁・**上毛新聞社**・群馬・2016/3刊・ISBN9784863521452

売行良好書　期間：2016年4月15日～5月15日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『バルチック艦隊ヲ捕捉セヨ』3240円・成文社　(2)『へろへろ　雑誌『ヨレヨレ』と「宅老所よりあい」の人々』1620円・ナナロク社　(3)『出産・育児ママのトリセツ』1512円・忘羊社　(4)『ピアノの巨人　豊増昇』1836円・小澤昔ばなし研究所　(5)『世界でいちばんやさしい料理教室』1404円・ベターホーム出版局　(6)『点滴ポール　生き抜くという旗印』1512円・ナナロク社　(7)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1404円・書籍情報社　(8)『熊本城を極める』864円・サンライズ出版　(9)『今、この本を子どもの手に』1080円・東京子ども図書館　(10)『フィールド版　写真でわかるシダ図鑑』1620円・トンボ出版　(11)『図説　穂高神社と安積族』1620円・龍鳳書房　(12)『熊本城のかたち』2160円・弦書房

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『三角形』360円・暗黒通信団　(2)『円』339円・暗黒通信団　(3)『東京かわら版　５月号』500円・東京かわら版　(4)『本の雑誌　３９６号』720円・本の雑誌社　(5)『本屋大賞　２０１６』600円・本の雑誌社　(6)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』823円・吉備人出版　(7)『奥武蔵登山詳細図全１３０コース』950円・吉備人出版　(8)『極東セレナーデ』1836円・フリースタイル　(9)『奥多摩登山詳細図（西編）』950円・吉備人出版　(10)『歴史家の城歩き』2700円・高志書院

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本一センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『きみを嫌いな奴はクズだよ』2052円・書肆侃侃房　(2)『太陽王アンドレ・ブルトン』2430円・エディションイレーヌ　(3)『奥武蔵登山詳細図　武甲山・武川岳・伊豆ヶ岳・丸山　全１３０コース』950円・吉備人出版　(4)『古代ギリシャ語語彙集　改訂版』3240円・大阪公立大学共同出版会　(5)『出産・育児ママのトリセツ』1512円・忘羊社　(6)『月と蛇と縄文人』1944円・寿郎社　(7)『歌集　砂丘律』1512円・青磁社　(8)『中国の古橋』5616円・花乱社　(9)『熊本城のかたち』2160円・弦書房　(10)『中国妖怪・鬼神図譜』3780円・中国書店（集広舎）

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

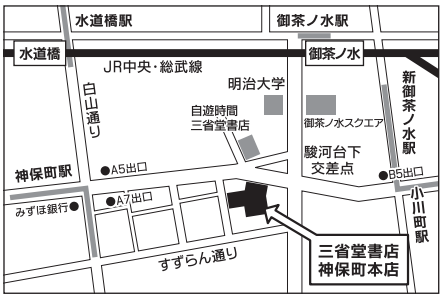
▼長野県上田市上田城跡公園内にて、【信州上田真田丸大河ドラマ館】開館中です。9:00～17:00、期間中無休、来年の1月15日まで。「戦国時代の名将、真田信繁（幸村）を描いた物語、大河ドラマ【真田丸】の世界を体感。戦国の荒波を駆け抜け、〈日本一の兵〉と称えられた主人公、真田信繁（幸村）。その波瀾万丈な生涯と家族愛を描くドラマのストーリー展開に合わせて、今後、更に展示内容を充実させていきます」（信州上田真田丸大河ドラマ館ホームページより）。当方取扱の関連書籍【疾風六文銭　真田三代と信州上田　改訂二版】（週刊上田新聞社刊、本体800円）、【真田道を歩く　改訂版】（上毛新聞社刊、本体1200円）、【真田幸綱・昌幸・信幸・信繁　戦国を生き抜いた真田氏三代の歴史】（岩田書院刊、本体2800円）等々在庫あります。

▼池袋西武内に昨年開店した**三省堂書店池袋本店**との直接取引を始めました。現在、書籍館3Fのアート、人文書売場にて地方出版社小出版社フェア開催中です。6月中旬まで。【月刊住職】や【夜想】ほか、【円周率100万桁表】でおなじみ、暗黒通信団の書籍等。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店 BOOKS SANSEIDO
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。